

業務の効率化に向けて、優れた業務実施手法を明らかにした上で、DX技術の効果や適用条件・場面を整理。優れた事例の業務ノウハウを見える化した上で、効率的・効果的な業務の共通化を目指して、水平展開を図る方策について検討する。

現状・課題

- 施設の老朽化や職員数の減少などの様々な課題に直面しており、業務の一層の効率化を図る必要がある。
- 特に点検・維持管理面は人の手に大きく依存しており、地理的条件の厳しい地域を中心に、効率的な事業運営や緊急時の迅速な復旧が課題となっている。
- 課題解決にあたり優れた成果を上げている業務実施手法やDX技術の水平展開・導入が必要だが、優れた業務実施を支える技術ノウハウの伝承やDX技術の導入検討において、人的リソース不足が課題である。

目指すべき姿

- 業務の共通化、優れた事例の水平展開
- DX技術の効果的な導入の促進



- 業務の一層の効率化
- 広域化・共同化の推進
- 官民連携の推進 等

検討内容

- ① 共通する業務の抽出
- ② 各業務における優れた事例及びDX技術の整理
- ③ 優れた事例の業務ノウハウを分析・共通化

アウトプットイメージ

- 優れた技術ノウハウの掘り起こし・見える化
- DX技術の活用手法(導入プロセス、運用方法)の確立
- 広域化・共同化につながる取組(複数団体連携、他分野連携)の推進
- 水平展開方策の提示

(2)情報整備・管理の標準化

維持管理に加え広域連携や災害対応等の観点から、自治体の状況等を踏まえ、上下水道分野における情報整備・管理のあり方を検討し、広域連携の推進や災害対応の迅速化に向けた情報整備・管理の標準化等の促進策について検討する。

現状・課題

- 上下水道分野における情報整備・管理の方法は、水道・下水道の各分野で検討され、方針が示されてきた。
- 人員不足や施設の老朽化等が進む中、広域連携等による効率的な運営体制の構築が重要だが、紙媒体で情報管理がなされている自治体や、電子的に情報管理がなされてもシステムの仕様等が異なる自治体もある。
- また、令和6年能登半島地震では、多くの自治体で紙媒体資料で被害調査を行ったため、悪天候時の作業や集計作業の効率化等、改善の余地が大きい。

目指すべき姿

- 情報整備・管理の標準化の推進 等



- 維持管理の効率化
- 広域化・共同化の推進
- 官民連携の推進
- 災害時対応の迅速化 等

検討内容

- ① 上下水道事業の情報整備・管理のあり方を検討
- ② 既存のガイドラインや標準仕様等の課題整理
(必要に応じてそれらの改訂方針を検討)
- ③ 情報整備・管理の標準化等の促進策を検討

アウトプットイメージ

- ① 上下水道事業の情報整備・管理のあり方を提示
- ② 既存のガイドラインや標準仕様等の課題整理
- ③ 情報管理の標準化等の促進策を提示
(必要に応じて②の改訂方針を提示)

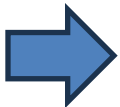
(3)DX技術実装

上下水道施設のメンテナンス等の業務の効率化に資する上下水道DX技術の実装を加速するため、それらの効果や適用条件等の整理・可視化等の方策について検討する。

現状・課題

- 上下水道施設の老朽化や管理に精通した熟練職員の減少が進む中、デジタル技術を活用し、上下水道施設のメンテナンス等の業務の効率化を図ることが必要

目指すべき姿

- DX技術の標準装備
- 
- 維持管理その他業務の効率化
 - 広域化・共同化の推進 等

検討内容

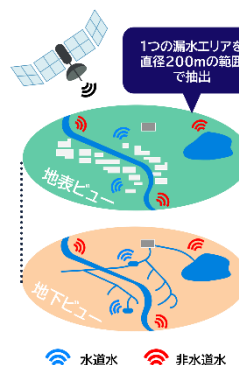
① 上下水道DX技術カタログの内容・周知方法

- ・ ユーザー視点でのカタログ内容や自治体等への効果的なカタログ周知方法
- ・ カatalog公表・改訂におけるデジタル活用

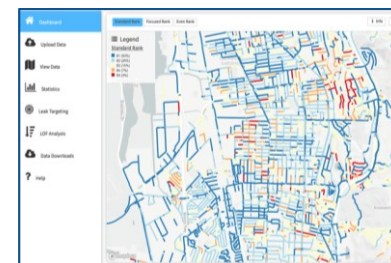
② 自治体とスタートアップ企業等との連携促進方策

- ・ スタートアップ企業等の参入機会創出のための効果的なマッチング方法等

- 人工衛星による水道水の反射波データをAIで解析し漏水区域を特定



- 管路情報 & 環境ビッグデータ×AIにより管路1本ごとの劣化状況を可視化



アウトプットイメージ

- 上下水道DX技術カタログの公表
- 自治体とスタートアップ企業等との連携促進策の提示(マッチングイベントの開催、スタートアップ企業技術の導入促進策等)

(4)現状可視化

地域の上下水道の現状に対する理解を醸成し、改善に向けた取組を促すため、経営状況等を自治体間で共有・比較可能とすべく、可視化する方策について検討する。

現状・課題

- 国土交通省、総務省等では、経営指標の経年分析や他の地方公共団体との比較や、経営健全化に取り組む中小団体の優良事例集などをHP等に掲載し、「見える化」に取り組んできたところ。
- 上下水道事業の持続性を向上するためには、コスト縮減の徹底や料金・使用料の適正化等の経営改善に取り組むことが重要であり、利用者等の理解を得るためにも、上下水道の役割や効果、事業運営上の諸課題について、積極的に広報を行っていくことが必要。

目指すべき姿

- 経営状況等の
比較可能な情報共有・可視化



- 住民の理解促進
- 課題分析・業務改善の促進 等

検討内容

- 政策ダッシュボードで取り扱う指標の検討
- 公表のイメージ(見やすさ、分かりやすさ)の検討

アウトプットイメージ

- 政策ダッシュボードとの連携により、上下水道事業の経営状況などの情報が分かりやすく比較可能な形で公表。

上下水道DX推進検討会のスケジュール案

1 2 月 2 5 日	第 1 回 キックオフ、検討の進め方
2 月上旬	第 2 回 検討状況、成果イメージ
3 月上旬	第 3 回 中間とりまとめ
5 月	第 4 回 成果とりまとめ